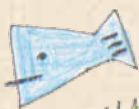


平成27年度 冬期企画展

昔の水辺の風景画 展示図録

絵画募集に込めた願い ～ 水辺の環境を取り戻すために ～



若狭三方縄文博物館

平成27年度冬季企画展

昔の水辺の風景画 展示図録 発刊にあたって

昔の水辺の風景画は、美浜町・若狭町の先生方、教育委員会、地域の年配の方々にお世話になり実現しました。皆さまには、厚く御礼申し上げます。水辺の風景画を通じて、我々年配の者がもつ「記憶」が、次の世代を担う子どもたちに地域を誇りに思う気持ちとともに引き継がれ、明るい未来につながることを祈念しております。

ハスプロジェクト推進協議会 会長 大 下 恭 弘

「昔の水辺の絵」は、かつて水辺で豊かで楽しい経験をした年配者の話を聞いた子どもたちがイメージをふくらませ、心をあわせて描きだした世代間の協働作品である。その手法と作品となったデータは「生物多様性モニタリング」の世界を大きく広げ、自然再生の目標像を明瞭にしてくれる。

三方五湖自然再生協議会 会長 鷲 谷 いづみ

「昔の水辺の風景画」をハスプロの皆さんから最初に教わった時、地域の子供達による絵画作成を通して、世代をつないだ経験の共有となる、暖かくて大切な時間をつくりたいという彼らの篤い思いに、深く共感しました。その時間がたくさんつまった図録は地域の宝でしょう。また次の宝を楽しみに、今後取り組みに関わり続けたいと思います。

東京大学 准教授 吉 田 丈 人

「こんなにいろんな生き物がたくさんいて、楽しかったよ」と目を輝かせてお話をして下さる祖父母と、それを見つめる子どもたち。生物相が豊かだったそう遠くない昔に思いをはせながら、現在の水辺がそんなだったらいいのと思う。こうした思いを共有できるまたとない機会を大切にしたいと願っています。

若狭町教育研究会環境教育部会 会長 小 嶋 明 男

1 三方五湖とその周辺のめぐみってなあに？

■ 三方五湖とその周辺の自然環境

三方五湖は、万葉集に「若狭なる 三方の海の浜清み い行き還らひ 見れど飽かぬかも」（詠み人知らず）と詠まれる程、古くから知られた景勝地で、1937年に国名勝、1955年には若狭湾国定公園に指定されました。リアス式海岸の若狭湾から海水・汽水・淡水という豊かな水環境に恵まれた当地は、生物多様性に富んでおり、2005年にはラムサール条約湿地に登録されました。



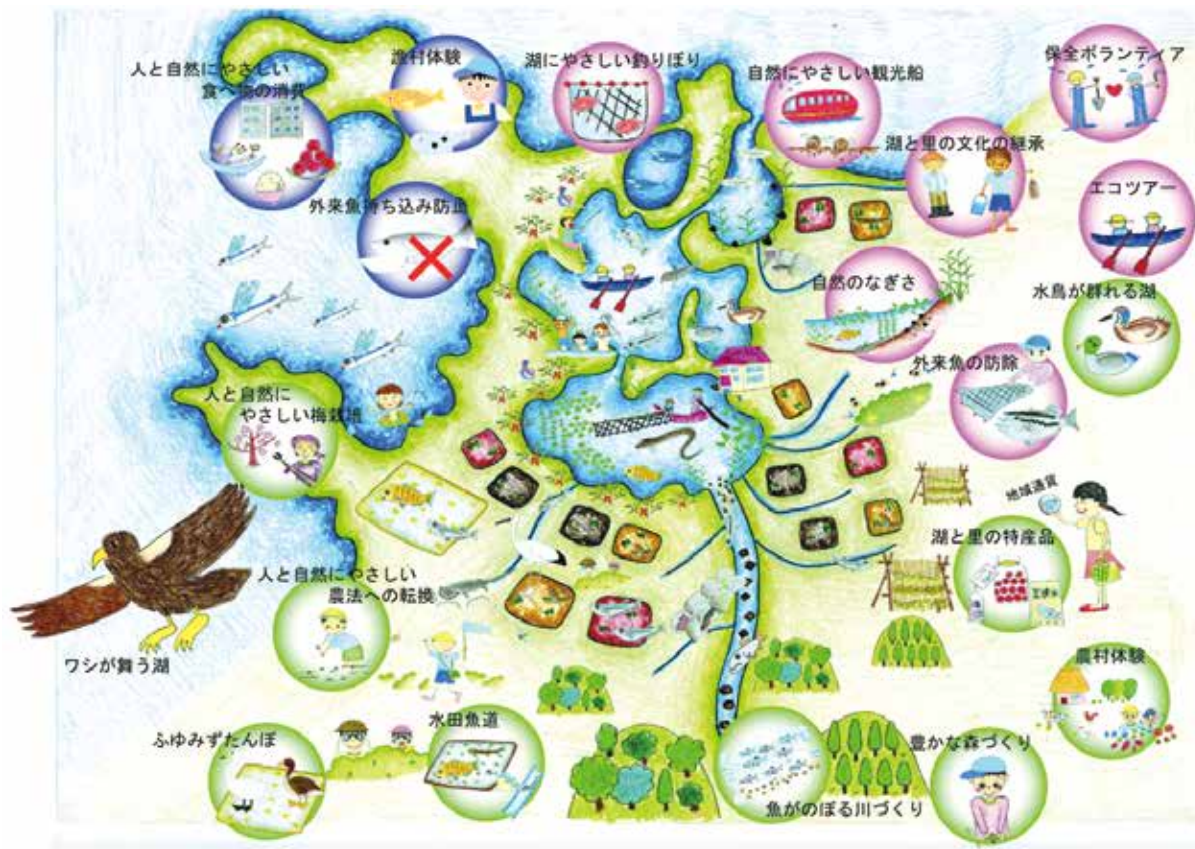
■ 自然環境保全上の問題・課題

しかしそのような三方五湖にも、近年変化が見られます。コンクリート護岸によって単調化した水辺、3面張り水路によって分断された水のつながり、外来生物の侵入等によって、**自然をとりまく環境変化**が深刻化しています。これらは生きものの種類・生息数減少や、それによって引き起こされる生態系の変化（**自然環境の劣化**）につながります。さらに**周辺地域への影響**として、人と自然との関わりの変化や自然のめぐみの減少が挙げられます。

■ 湖と里のネットワーク再生ビジョン(案)

こうした現状の中、三方五湖周辺の里地里山をフィールドに活動しているNGOハスプロジェクト推進協議会は、以下の3つのテーマをもとに、2005年に「湖と里のネットワーク再生ビジョン(案)」をつくりました。

- ## ● 人と自然のにぎわう地域づくり



五湖のめぐみ多世代アンケート

ハスプロジェクト推進協議会が２００６年秋に実施したのが、「五湖のめぐみ多世代アンケート」です。これは、福井県若狭町立の小学校１１校の４・５年生「児童」・「父母世代」・「祖父母世代」を対象にしたもので、約１０００人から回答がありました。

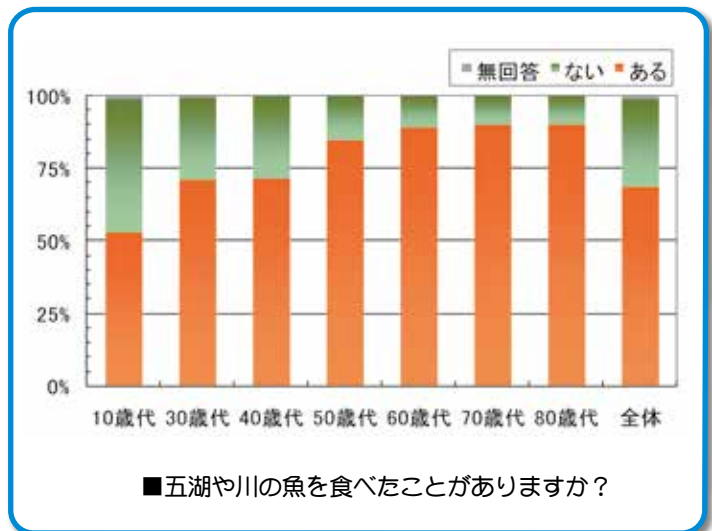
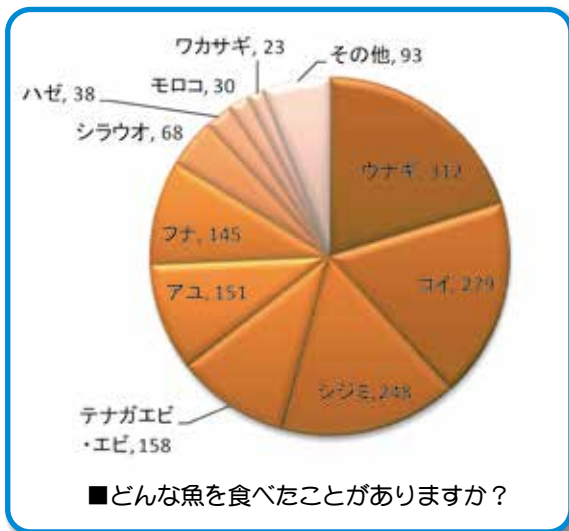
主な内容は、

- ① 身近にどんな魚貝類がいたか？
 - ② 水辺でどんな遊びをしていたか？
 - ③ 淡水魚貝類を食べたことがある？
- の3項目を中心に、記述式で回答するものでした。

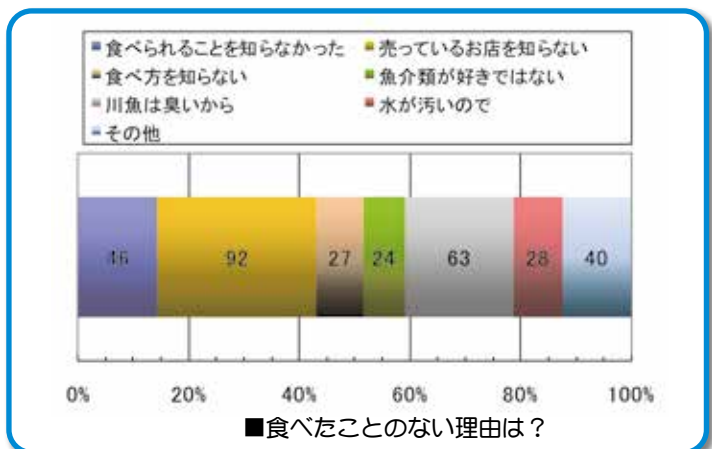
特に「淡水魚介類を食べたことがある？」の質問に対しては、世代が若くなると少なくなるという結果が得られました。その理由の多くは、「知らない」や「先入観」で占められていることがわかりました。

[illegible]

五湖のめぐみ・多世代アンケート用紙



身近な水辺でとれる「めぐみ」である、淡水魚介類にも関わらず、こうしたアンケート結果が出たことで、ハスプロジェクト推進協議会は、一つの取り組みをはじめることになります。



テナガエビのかんろ煮



コイのお刺身



モロコのかんろ煮



フナ豆

身近な水辺でとれる「めぐみ」

2 なぜ「昔の水辺の風景画」なの？

昔の水辺の風景画の特色

五湖のめぐみ多世代アンケートの後、「おじいさん、おばあさんが小さかった頃の水辺の風景を見たい。」という子どもたちの声によって、「昔の水辺の風景画」がはじまりました。福井県若狭町立小学校の子どもたちを対象に夏休み前に募集し、夏休み明けに応募作品が集まりました。

2013年からは、同美浜町立小学校も対象になりました。

昔の水辺の風景画の最大の特徴は、子どもたちがお年寄りから聞き取って、昔の水辺の風景を絵画に描く、ことです。子どもたちが、当然「見たことのない」風景です。

2007年にこの取り組みがスタートし、2015年までに1000点を超える絵画の応募がありました。



昔の水辺の風景画 アンケート用紙

3 こんな風景画が集まりました！

2009年～2015年度応募作品の概要

2007年からはじまった「昔の水辺の風景画」の取り組みですが、現在の方式になった2009年以降の作品を本図録で紹介します。掲載絵画は、絵の「うまい」・「うまいくない」ではなく、昔の水辺をわかりやすく表現していることを基準に選択しました。



絵画の対象物

絵画の対象物は大まかに分けると、「人物中心」、「生きもの中心」、「景観中心」、それらを「複合」したものになります。これらのうち「複合」が最も多く、本図録掲載絵画でも同様です。人物や生きものが登場しない景観中心であっても、今の風景とは明らかに異なる昔の石積み護岸や、ほ場整備されていない水田、はさ掛けなどが上手に表現されたものがあります。人物や生きもの中心の絵画には、生き生きとした表情やポーズではしゃぐ子どもたちや、生息数が少なくなったり、ほとんど見られなくなったりした生きものが、大きく描かれたものが目立ちます。

絵画とともに得られた情報

東京大学・静岡大学を中心とする皆さんの手によって応募作品はデジタル化され、「みんなの三方五湖マップ β版」 <http://www.mikatagoko.jp/FlashMap.html> で公開されています。この際、絵画の表現された空間情報（地区・地点・緯度・経度）、時間情報（昭和●●年代、19▲▲年代）、風景についての聞き取り、聞き取った（子どもの）感想、キーワードなども一覧表に整理されています。本図録では、これらの情報を生かして編集を行いました。

人物中心の風景画

■集落名・場所・年代説明

※特に市町名が記されていない
ものは若狭町の集落



■白屋・はす川上流・昭和20年頃
水泳と魚とりを一緒に楽しむ。



■梅ヶ原・大橋のあたり・昭和10年頃
石で川の流れを狭めてアユすくい。



■井崎・はす川・不明
川底に小石がごろごろしている。



■海山・水月湖・昭和30年頃
むかしは家の近くでいっぱいシジミがとれた。



■海山・湖・昭和40年頃
塩坂越でとれた魚を、海山から舟で美浜に運ぶ。



■別庄・湖・昭和50年頃
懐中電灯で照らして、タモでエビをとる。



■日笠・川・昭和30年頃
ナマズ、ウナギ、アユをヤスでとる。



■気山・かや田・昭和30年頃
刈った稲は田舟にのせる。かや田には根木がある。



■岩屋・川・昭和10年頃
竹の筒でウナギ、ナマズを、竹竿でフナやハスを釣る。



■東黒田・川・不明
カメ、ウナギ、ドジョウ、メダカ。カラス貝。



■倉見・はす川・昭和30年頃
川に入って泳ぎ、とった魚はその場でさばいて食べる。



■気山・湖・昭和60年頃
夜、エビすき(エビすくい)に行き、モリでウナギを突き捕る。



■三方・水田・昭和20年頃
5、6月は田んぼでフナを捕まえて食べた。



■向笠・川・昭和40年頃
ミミズをエサに、ウナギを突き捕る。



■田名・はす川の田名橋から下流・昭和20年頃
川で泳ぎ、ヤツメウナギ、ウグイ、ハスをとる。



■鳥浜・上口橋・昭和60年頃
川に入ってウナギをつかみどりする。



■鳥浜・三方湖・昭和40年頃
手漕ぎ舟の頃は、たたく人と漕ぐ人の2人でたたき網漁。



■別庄・川・昭和50年頃
川の大きな石を持ち上げると、下にカニがいた。



■三方・観音川・昭和40年頃
メダカを手づかみでとって遊んでいた。



■梅ヶ原・河内川・昭和15年頃
水が豊富な川で洗濯をしていた。

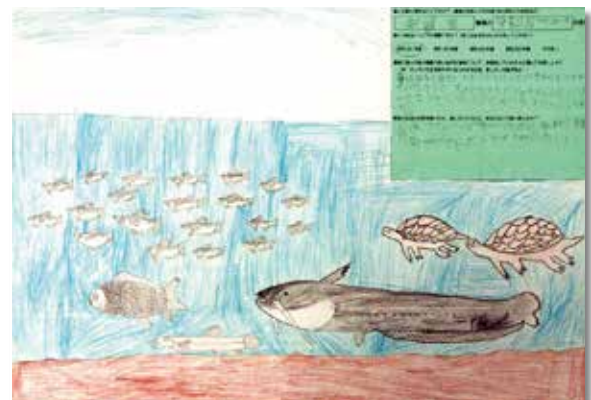


■美浜町南市・水田・昭和50年頃
田んぼにたくさんのおたまじゃくしを毎日とりに行く。

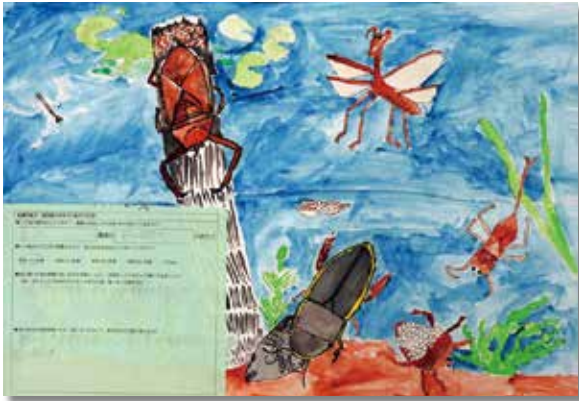
生きもの中心の風景画



■三宅・家の近くの川・昭和50年頃
石の多い川にカニや魚、ホタルがたくさん。



■安賀里・公会堂近くの川・昭和20年頃
メダカ、フナ、ドジョウ、カメ、ナマズ。



■鳥浜・水田水路・昭和20年頃
ゲンゴロウガメタカをつかまえる。タガメなども。



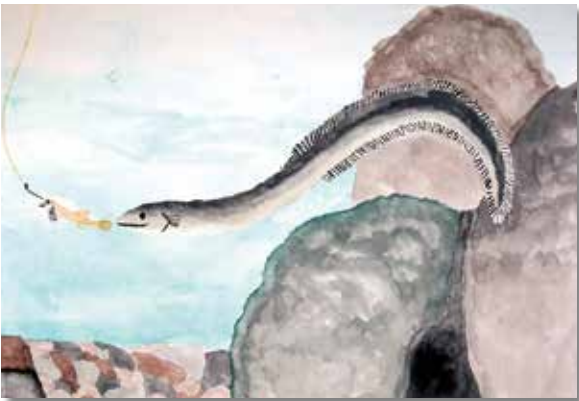
■相田・はず川・昭和30年頃
アユ、フナ、ドジョウ、ハス、モクズガニなど。



■相田・川・昭和30年頃
カワムツ、ウグイ、ナマズ、ハスなど。



■向笠・三方湖・昭和30年頃
フナ、ウナギ、ナマズなど。



■梅ヶ原・川・昭和20年頃
30cm以上のウナギをホンドジョウをエサとして釣る。



■向笠・高瀬川・昭和30年頃
フナ、ドジョウ、モロコ、テナガエビなど。



■鳥浜・三方湖・昭和30年頃
テナガエビ、ウナギ、モクズガニ、ハス、シジミなど。



■藤井・はず川・昭和40年頃
フナ、ハス、ドジョウ、ドンコなど。



■別庄・田中川・昭和40年頃
竹竿につけたドジョウで釣る 40 ~ 50 cmのナマズ。



■向笠・水田・昭和50年頃
田んぼに入った 50 cmくらいのコイをつかまえる。



■向笠・川・昭和20年頃
ウナギ、ドスマン、サワガニなど。



■上吉田・北川・昭和40年頃
カワムツ、アブラボテ、オイカワ、ドンコ、ヤゴなど。



■関・家の前の川・昭和50年頃
石垣を積んだ川で、ぬらしたほうきでホタルとりをした。



■三方・山古川・昭和20年頃
モクズガニ、カワヤツメ、タニシ、ウナギなど。



■三方・線路と道路の間の川・昭和20年頃
ハス、モクズガニ、カワヤツメ、ウナギ、テナガエビなど。



■鳥浜・三方五湖・昭和30年頃
昔いたウナギやナマズが、今はブラックバス、ブルーギルに。



■向笠・高瀬川（中流）・昭和50年頃
ドスマン、ゴリン、ズガニなどは、とっても毎日いた。



■熊川・前川・昭和50年頃
石積みめの川の石と石の間に大きなカニがいた。

景観中心の風景画



■山内・水田・昭和30年頃
いろいろな形のたんぼに、季節ごとの生きもの。



■伊良積・三方湖・昭和50年頃
舟小屋の近くで泳ぐ大きなニシキゴイやマゴイ。



■三方・不明・昭和20年頃
水田では田植えなどを手作業でしている。



■向笠・高瀬川・昭和20年頃
コンクリートでなく、岩や石ばかりの川。



■成出・三方湖・昭和30年頃
舟小屋から水路を通して、ヒシの生えた湖に出る。



■関・北川・昭和30年頃
北川本流と、「いねど」では、すむ魚の種類が異なる。



■美浜町宮代・集落センター付近・昭和30年頃
水車小屋が集落の近くにあった。



■北前川・旧三方町役場周辺・昭和30年頃
不定形の田んぼの近くには、いなき(稲架)が並んでいる。



■杉山・水田・昭和20年頃
不定形の田んぼの中、手作業で田植えをしている。



■向笠・農家組合倉庫周辺・昭和50年頃
川の近くにいくと虫かごいっぱいのはタルがとれた。

人物・生きもの・景観複合の風景画



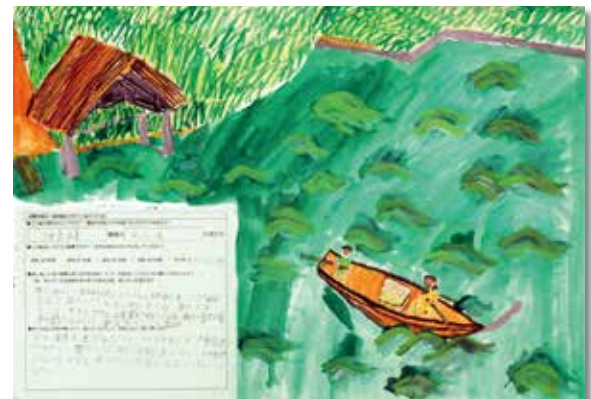
■鳥浜・はす川・昭和40年頃
モンドリ漁法で産卵遡上したたくさんのコイがとれた。



■世久見・三方湖・昭和40年頃
舟から湖にしかけたウナギ筒を引き揚げる。



■気山・久々子湖と水田・昭和20年頃
湖と水田が水路でつながる。田舟と田下駄を使って稲刈り。



■伊良積・三方湖・大正4年頃
さんば舟で青梅を運ぶ。男は櫓で舵をとり、女は櫓で漕ぐ。



■有田・線路のあたりの川・昭和20年頃
ウナギ、ドジョウとり。川でスイカを冷やしている。



■新道・川・昭和20年頃
ヤナギの垂れる川でウグイ（だしをとる魚）のつかみどり。



■岩屋・水田・昭和50年頃
土の用水路にカメ、ドジョウ、ドスマンがいっぱい。



■成願寺・川・昭和40年頃
田んぼと川がつながり、境目には崩れ防止のフラガ。



■天徳寺・水田と川・昭和50年頃
むかしの川はきれい。ホタルがたくさん。



■成願寺・川・昭和10年頃
魚を足で追い出して竹のザルですくってつかまえる。



■気山・久々子湖・昭和50年頃
夜、懐中電灯で照らして、テナガエビをタモでとる。



■伊良積・三方湖・昭和20年頃
手漕ぎ舟で魚をつる人、水辺でトンボをとる子ども。



■別庄・水田・昭和40年頃
タモや底のないバケツで田んぼの魚とり。



■伊良積・三方湖・昭和20年頃
手漕ぎ舟で湖に出て、タモで網にかかった魚をとる。



■向笠・水田・昭和50年頃
稲をいなきに干す。カエル、バツタ、ドジョウ、ゴリン。



■鳥浜・はす川・昭和30年頃
谷川の水のようにすみきって飲めるぐらいきれいな川。



■鳥浜・はす川・昭和30年頃
田んぼのコイを網でとる。生きものにあふれている。



■北庄・三方湖・昭和50年頃
舟小屋に帰ってきた船には、とったウナギがいる。



■相田・川・昭和20年頃
ドジョウをタモですくう。田んぼにも魚がいる。



■世久津・田井島・昭和40年頃
動力のない小舟から、投網で魚をとる。



■別庄・三方湖・昭和25年頃と昭和50年頃
湖でのヒシとりと川での魚とり。



■世久見・川・昭和30年頃
海に面した川でウナギ釣りと洗濯。スイカも冷やす。



■北庄・三方湖・昭和30年頃
舟小屋から収穫した青梅を積んで湖に出る。



■小浜市加斗・本所川・昭和40年頃
カメ、モクスガニ、オニヤンマなど。



■安賀里・安賀里川・昭和20年頃
学校が終わると、友達と川で泳ぐ。



■麻生野・水田・昭和40年頃
田んぼの間のみぞ川で、つりエサのザリガニをとる。



■上吉田・北川・昭和30年頃
川でアユ、ドンコとりや水泳。鉄橋にはSLが走る。



■田名・川・昭和20年頃
ウグイ・フナ・ウナギ・ゴリンチョをつかみどり。



■藤井・川・昭和50年頃
投網でウグイをとる。



■藤井・川・昭和30年頃
ウナギをとったりせき止めたりして遊んだ川は、今は道。



■鳥浜・川・昭和30年頃
オバス、メバス、ウグイを投網でとる。



■鳥浜・川・昭和30年頃
テナガエビ、シジミ、フナ、シラウオ、モクズガニなど。



■鳥浜・はす川（上口橋）・昭和50年頃
フナ、モロコ、ワカサギを釣る。シラウオ、コイなど。



■別庄・三方湖と水田・昭和20年頃
田んぼでコイ、フナなどを友達と一緒につかまえる。



■世久津・川・昭和10年頃
夜、タオルを手に巻いて、ケガニなどをつかんだ。



■田井野・はぶ川・昭和40年頃
洗濯などに使う「川と」があった。



■世久津・三方湖・昭和30年頃
ミミズでハゼつり。ドジョウをつけた棒でウナギとり。



■伊良積・三方湖・昭和20年頃
いなぎの上に乗るとおこられる。湖で水泳をしている。



■美浜町久々子・こや川・昭和30年頃
牛をつかって耕作をしている。川で魚とりする人も。



■美浜町笹田・久々子湖・昭和30年頃
テナガエビ、ハゼ、カニなど。石垣の中にはウナギ。



■早瀬・久々子湖・昭和30年頃
湖岸が石垣でヨシがたぐさん。魚が泳ぐのが見えた。



■岩屋・岩屋川・昭和20年頃
ヤツメウナギやドジョウなどをタモでとっていた。



■相田・はす川（おんどり橋）・昭和30年頃
いつも10人ぐらいの子どもがいて、魚を手づかみ。



■海士坂・水田・昭和50年頃
田んぼにはドジョウ、カエル、タニシがいっぱいた。



■成出～別庄間・三方湖・昭和30年頃
稲刈りをすると舟でいなぎまで運んだ。ヒシとりも舟で。



■成出・三方湖・昭和40年頃
湖の遊泳場所で泳いだ。湖には水鳥もたくさんいる。



■世久津・島之内・昭和30年頃
田舟をつかって稲刈りをしている。



■上向笠～鳥浜間・高瀬川・昭和20年頃
ナマズ、ウナギ、モクズガニ、タニシなど。



■鳥浜・三方湖・昭和50年頃
二人一組のたたき網漁。水辺にはサギなどの水鳥が。



■鳥浜・はす川・昭和50年頃
トマトジュース缶を水中メガネ代わりに水面を覗く。



■食見・食見の浜・昭和20年頃
砂浜で海水を二晩火にかけると、真っ白な塩ができた。



■田井野・三方湖と水田・昭和40年頃
稲刈りの時期、田舟、田下駄、いなぎのある田んぼ。



■安賀里・川・昭和30年頃
シジミ、カラス貝、ナマズ、フナなど。



■鳥浜・青年の家付近・昭和46年頃
泳いでいると、魚がいっぱい足に吸い付いた。



■鳥浜・三方湖・昭和27年頃
舟に乗って、湖のヒシをとっている。



■世久津・島之内の水田・昭和40年頃
大雨の後、田んぼに入ってきたフナをつかまえ遊んだ。



■気山・久々子湖・昭和60年頃
シジミを四ツ手網でとっている。



■上吉田・北川・昭和23年頃
アユ、ウグイ、ウナギ、カニなど。



■別庄・別所川（多由比神社前）・昭和20年頃
「しょうけ」という竹ザルで魚をすくって遊んだ。



■河内・河内川・昭和40年頃
「ひっかけ」や「やす」を使って魚とりをしている。

4 風景画を描くことで、こんなイイコトがありました！

風景画の展示

若狭町内のショッピングセンター、ギャラリー、若狭三方縄文博物館などで展示されました。



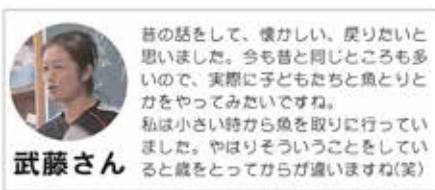
風景画ワークショップ

主に絵画の対象地となった地元住民向けに、絵画を題材にしたワークショップが開催されました。



風景画づくりを通じた多世代交流

若狭町内の小学校で、祖父母世代から昔の水辺のようすを聞き取り、絵画の作成までを行う多世代交流授業が行われました。



5 風景画からひろがるアクション。

自然再生事業

自治体・地元住民・研究者等から構成される法定協議会「三方五湖自然再生協議会」の取り組みは、三方五湖自然再生全体構想として発表されました。風景画を通じた取り組みは、同協議会環境教育部会の継続した活動の一つです。



湖と田んぼのつながりの再生

子どもたちの描いた風景画の多くには、湖と水路でつながった水田や、そこで魚をとる人たちが描かれていました。フナやコイは古くから地元で食材利用されていましたが、それは湖と水田を往来して繁殖できたからなのです。近年水田での繁殖が激減していることから、自然再生の取り組みの一環として、漁業者・農業者・研究者・行政などによる協働の取り組みが進められています。



フナ



水田魚道の設置



採卵・水田放流



皆でモニタリング

ハスプロジェクト推進協議会の活動

2005年に設立したハスプロジェクト推進協議会は、カヤ田（若狭町気山）での保全活動を通じて若狭地域における里地の原風景を後世に伝え、三方五湖に再び生き物のにぎわいを取りもどし、流域の自然と人間との共生をめざして、自然環境保全活動を行うことを目的としています。調査・研究活動、環境教育活動、実践活動、及び広報活動を行っています。

詳しくはこちら⇒ <http://www.komusyoukai.com/hasupro/>



本図録掲載の写真・図表の出版は下記のとおりです。

1ページ: 若狭町

2ページ上: ハスプロジェクト推進協議会ホームページ (<http://www.komusyoukai.com/hasupro/>)

2ページ下、3ページ上: ハスプロジェクト推進協議会発行 2007『五湖のめぐみ』第1号

19ページ中: 三方五湖総合研究グループ・ハスプロジェクト推進協議会発行 2012『昔の水辺の絵画ニュース』

19ページ下: 三方五湖自然再生協議会事務局発行 2012『三方五湖自然再生全体構想〔概要版〕～湖と里をとりまく自然と人のつながりの再生～』

上記以外の写真・図表及び「昔の水辺の風景画」の経緯については、ハスプロジェクト推進協議会から資料のご提供をいただきました。

平成27年度冬季企画展 昔の水辺の風景画 展示図録

平成28年1月10日発行

編集 若狭三方縄文博物館

監修 富田涼都（静岡大学）

協力 ハスプロジェクト推進協議会 三方五湖自然再生協議会 東京大学

発行 若狭三方縄文博物館 若狭町歴史環境講座企画運営委員会

〒919-1331 福井県三方上中郡若狭町鳥浜122-12-1

TEL:0770-45-2270 FAX:0770-45-3270

印刷 木下印刷

平成27年度冬季企画展

昔の水辺の風景画 展示図録 発刊にあたって

私たちが少年時代に過ごしたころの三方五湖の水辺には、たくさんの野鳥が飛来し、久々子湖ではシジミがたくさん捕れました。それは、懐かしく、楽しい思い出です。こうした記憶が、私自身の郷土への愛着になっていると感じています。年配の方がもつ素晴らしい記憶を、ぜひ、これからも、現代の子どもたちに伝えたいですね。

美浜町教育委員会 教育長 大 同 保

お年寄りから子どもたちに記憶を伝える、というこの取り組みは、現代では希薄になりがちな「お年寄りと子どもたちのつながり」を深めるということとても素晴らしい取り組みだと思います。絵画の取り組みをきっかけに、家族内で、あるいは地域において、世代間の交流が活発になり、地域みんなが元気になってくれることを期待しています。

若狭町教育委員会 教育長 玉 井 喜 廣

監修者より

豊かな風土を後世に

監修者 富 田 涼 都（静岡大学）

優に1000点を超える「昔の水辺の風景画」に描かれていたのは、まさにその時代時代における地域の豊かな風土の姿と言えます。すなわち、身近な自然であり、その豊かな恵みに関わる知恵や文化であり、恵みをいただいて生きる人間の姿でもあります。風景画には、地域の風土やそこに生きる人の思いを知るための大事な話がいっぱい詰まっています。

そして、さらに驚くべきことは、この地域の風土についての世代を超えた濃密な語らいが、8年間の間に延べ1000組以上の子どものと大人の間で交わされたという事実です。子どもたちにとって風景画の世界は、生まれる前の「知らない」ものです。だからこそ、丹念に大人から話を聞かなければ絵を書くことはできません。1000点以上の風景画の存在は、それだけ多くの大人から子どもに、かつての地域の風土について語られたことの証なのです。

これは子どもにとっても大人にとっても普段にはない貴重な経験であると同時に、大人が知る豊かな風土を子どもたちのいる後世にどれだけ多く残せるのか、その試みの第一歩にもなるでしょう。「昔の水辺の風景画」による世代間の語らいは、豊かな風土を後世に伝え、地域の連綿と続く歴史を私たち自身が引き継いで紡いでいく瞬間にもなるかもしれません。

昔の水辺の風景が、いきいきと描かれています!

子ども達が、40～50年くらい昔の水辺の風景を、みごとに再現してくれました。
水辺で遊ぶ子ども達、魚を捕まえる子ども達、ハサ木が並ぶ田んぼの風景…。

今では、なかなか出会えない風景が、絵のなかでよみがえりました。
おいさん・おばあさんと子ども達のあいだで、どんなお話があったのでしょうか?
魚獲りに夢中になったこと、いろんな魚がたくさんすんでいたこと、楽しかったことなど。
なかには、詳しい遊び方をおしえてもらった子ども達もいるようです。

きっと、おいさん・おばあさんたちが子どもの頃の生活は、不便ななかにも、楽しい思い出
がたくさんあるのでしょうね。
そんなすてきな風景が、少しでもよみがえるとよいですね。

この作品展の絵は、美浜町・若狭町の子ども達が描いた、 昔(約40～50年前)の水辺の風景です。

夏休みのあいだ、子ども達が、おいさんやおばあさんに話を聞いて、その話をもとに画用紙
に描いた絵です。
美浜町・若狭町内の子ども達が、描いてくれました。

10年前、若狭町内の子ども達(全小学校4・5年生)と、親御さんの世代、おいさん・おばあ
さんの世代を対象に、「五湖のめぐみ・多世代アンケート」を実施いたしました。
そのアンケートの際、おいさん・おばあさんの世代では、五湖や近くの水辺で遊んだこと、
きれいな風景が広がっていたこと…などが、いきいきとお話しされたようです。

アンケートでは、「昔の湖の風景を見てみたいです」と書いた意見もありました。
でも、五湖や身近な水辺の風景は、なかなか写真には残されていません…。
そこで、子ども達に、おいさんやおばあさんが子どものころの水辺の風景を聞いて、
それを絵に描くことで、昔の風景の再現してもらいました。

絵を描いてくれた子ども達へ

おいさん・おばあさんのお話をきいて、いかがでしたか?
皆さん、それぞれに、とても楽しい絵を描いてくださり、たいへんありがとうございました。
とても、楽しくみせていただきました。
そして、昔の水辺の風景のことが、とてもよくわかりました。

昔の水辺には、たくさんの魚たちがすみ、そして、たくさんの子ども達でにぎわっていたよう
ですね。
水辺に、たくさんの魚たちが帰ってくると良いですね。